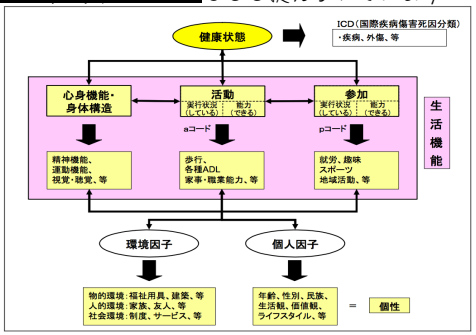
東海学院高等学校　東海 学　※氏名を記入

障害とは何か…WHOより

WHOは2001年にICF(International Classification of Functioning, disability and Health)を提案しました.これは,すべての人の状態像を「生活機能」（心身機能・身体構造,活動,参加）という概念を用いて説明する概念です.障害は,それらの生活機能のレベルが低下していることと捉えられています.



ICF概念図（厚生労働省HPより）

保育所保育指針より…2008年

第4章　1保育の計画（3）指導計画の作成上,特に留意すべき事項
ウ障害のある子どもの保育
(ア)障害のある子どもの保育については,一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し,適切な環境の下で,障害のある子どもが他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう,指導計画の中に位置付けること.また,子どもの状況に応じた保育を実施する観点から,家庭や関係　機関と連携した支援のための計画を個別に作成するなど適切な対応を図ること.
(イ)保育の展開に当たっては,その子どもの発達の状況や日々の状態によっては,指導計画にとらわれず,柔軟に保育したり,職員の連携体制の中で個別の関わりが十分行えるようにすること.
(ウ)家庭との連携を密にし,保護者との相互理解を図りながら,適切に対応すること.
(エ)専門機関との連携を図り,必要に応じて助言等を得ること.

幼稚園幼児教育要領より…2008年

第３章　第1　指導計画の作成に当たっての留意事項　2　特に留意する事項
（2）障害のある幼児の指導に当たっては,集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮し,特別支援学校などの助言又は援助を活用しつつ,例えば指導についての計画又は家庭や医療,福祉などの業務を行う関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成することなどにより,個々の幼児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的,組織的に行うこと.
（3）幼児の社会性や豊かな人間性をはぐくむため,地域や幼稚園の実態等により,特別支援学校などの障害のある幼児との活動を共にする機会を積極的に設けるよう配慮すること.

障害の種類
…実践に活かす障害児保育,前田泰弘編著,萌文書林,2016年出版

知的障害	発達が行動全般にわたってゆっくり
肢体不自由	運動や姿勢に関する脳や身体機能に障害がありADLを行えない
聴覚障害	聴覚がうまく働かない「聞こえない」「きこえにくい」がある
視覚障害	視覚がうまく働かない「見えない」「見えにくい」がある
発達障害	学習面又は行動面で著しい困難を示す

特別支援 5つの視点
…障害児保育ワークブック,星山麻木編著,萌文書林,2012年出版

1 心の支援
　親子の愛着形成をする,自尊感情を育てる
2 発達論による支援
　スモールステップ,「みんなと同じ」を求めない
3 行動への支援
　困った行動の意味を考える,正しいコミュニケーション方法を教える
4 環境調整による支援
　構造化する
5 周囲の人の連携による支援
　横のつながりと縦のつながり

障害のある幼児の保育で大切にすること

障害児保育の基本と取り組み方
…障害児保育の基礎,柴崎正行 編著,わかば社,2014年出版

1 障害名ではなくその子の姿から見ていくこと
　きめの細かい内面理解
2 周囲の子どもたちの生活する姿を見て育つ
　スクリプトの獲得
3 関係性を育てていく
　その子らしさが伝わる保育…保育者が橋渡し役
4 クラスの中で存在感を高めていく
　その子のよさが伝わるように
5 関係者との連携
　コンサルテーション,巡回相談など
6 障害をもちながらの人生を見通していく
　成長に合わせた目標を考える

障害のある子どもの保護者への支援
…障害児保育,渡部信一,本郷一夫,武藤隆編著,北大路書房,2011年出版

1 日常的なコミュニケーションをとおした保護者理解
　保護者は子どもの障碍に対して複雑な思いを持ち,
　その感情はゆれる
2 保育の専門性を家庭への貢献
　家庭の状況を把握し,家庭における現実的な
　対応を提案する
3 保護者への個別支援
　保護者のもつ隠れたニーズを発見する
4 地域のつながり
　親の会や療育施設,教育施設の情報を提供する

まとめ・自分の考え

障害には,様々あることが分かった.
障害のある幼児を保育するときには,家庭のことも考えて支援する必要がある.
障害児保育をするときには,きめの細かい内面の理解や指導の工夫をすると共に,まわりの子への理解も促していくことが必要である.